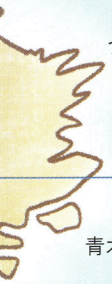


木名峠狼煙場跡

異国船の発見を伝達するための場所。海岸防備施設として重要な役目を果たしてきました。良質の煙を立てるため、狼の糞を使ったことがその由来。松の青葉を混ぜて燃やしたそうです。

④
⑦
頼母

三木埼灯台
三木埼遊歩道

初春にヤブキツバキの群生が咲き乱れる遊歩道が整備されています。三木埼の沖合いは古くから海の難所。三木埼灯台は昭和3年に初点灯し、熊野灘を行き交う船舶の目標となりました。

三木埼

なだらかなアップダウンで浜辺に到着

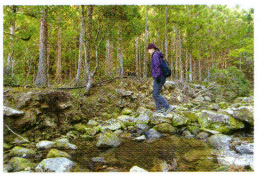
太地 たーじ

猪垣に囲まれた広い平地では稲作が行われていました。紀美男さんの叔父・七蔵さんが頼母から牛を連れて太地を訪れ、牛小屋も寝泊まりできる小屋もありました。田んぼの仕切りや川からの水路としてつくった頑丈な石積みに驚かされます。川を下ると遠浅の入り江、水遊びができる浜に出ます。かつてはこの浜で、クジラの追い込み漁をしたようです。

1. 炭窯跡
石積みがそのまま残された炭窯跡。山の暮らしが窺えます。

2. 高さもある猪垣
棚田をぐるりと囲う石垣で、獣害から実りを守りました。

3. 田んぼ跡
広々とした田んぼ跡。小屋跡からは生活道具も発見。



4. 谷筋の小川
田んぼの周りにつくられた水路へ、川から水を流しました。

5. 透き通る浅瀬の浜
透き通った浜辺で、水遊び。磯観察もできます。

6. 峠まで続く道
ヒノキの植林ゾーンの中に、峠までの道が続いています。

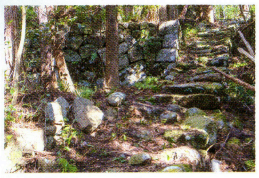
叔父さんが
頼母から牛を連れて
太地で稲作しとたんや。
頼母ではうまい白ご飯が
食べれたで、
休みになったら行きよった。
植える前の田起こしや、
5月前後の苗ほり（放り投げる役）
を手伝ったなあ。

上村紀美男さん

半夏生の咲く湿地帯はかつての田んぼ

頼母 たのも

慶長（1596～1615）のはじめ頃、南島町道行竈から４人が移住し、製塩をはじめたといわれ、天保３年（1832）に書かれた紀州藩「木本組全図」にも、「頼母竈」と記載されています。のちに頼母から盛松に移って塩の生産に励んだとされ、年貢も米・麦ばかりでなく塩も換算して納めたようです。また盛松の兵九郎という人物が、頼母を開拓し、新田６反３畝６歩を得て稲作を始めました。土壌は粘土層で、川の水も途切れることなく、稲作の適地。地図には「新田頼母」と記され、昭和43年まで人が暮らしましたが、電気は通らず、ランプ生活でした。



3 海蔵寺跡
1611年、周峯千徹が開基した海蔵寺。集団移転時に墓石も含めコノハへ移されました。

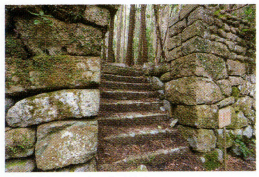
6 舟形地蔵
磯へ続く道沿いに佇む、地蔵菩薩一体。船の形をした飾りが、背後に付いています。

①山の神
集落の入り口に祀られている山の神（庚申？）。三角屋根の石の祠に守られています。

②炭窯跡
炭焼き用の石積みの窯。周囲はシイ・カシなどの常緑樹が生い茂る豊かな森林です。

③墓石
性根抜きをし、墓は三木浦へ移しましたが、集落があった証として、置かれています。

④住居跡
石垣に囲まれた空き地に、石臼など暮らしの道具がわずかに残されています。



9 庄屋屋敷
端正な石積みの庄屋跡。立派な石垣沿いを辿ると、頼母側の木戸に行き当たります。

⑤水田跡の湿原
広々とした湿原は、かつて牛が活躍した水田。夏には半夏生の風景が広がります。

⑥頼母神社跡
氏神・頼母神社は、今は三木浦に移転した頼母家で祠をつくって祀られています。

⑦丸石の磯
柱状節理の岩肌と紺碧の熊野灘を臨む磯。子どもたちは魚を捕って遊んでいました。

⑧棚田跡の石積み
川に沿って田んぼや畑の石垣あり。川ではウナギやドジョウ、テナガエビが捕れたそう。